

津山文化

津山市文化連盟

会報

2019 / 4

第 13 号

先人に学ぶ



加茂町文化協会 会長

楮原 衛

津山市文化連盟十三号掲載ありがとうございます。

加茂町文化協会発足について説明します。昭和二十二年当時、役場若手職員により立ち上げたと記されています。当時の名称は加茂文化連盟でした。

時に、終戦直後です。日本中貧乏のどん底の時代、生活第一と、次第に文化活動が後回しとなり、立ち消え状態になっていました。昭和四十八年頃より、各地方より、文化活動の声が上がります。町の後押しにより、加茂町文化協会と改名発足しました。

以来クラブ数は三十有余となりました。主な活動内容は、加茂町文化祭、町外協会との文化交流会、老人施設慰問、町内各クラブの交流会、郷土誌研究会、会員合同研修旅行を行っています。一番大きな事業は今年、加茂町文化協会四十周年記念誌を発刊しました。

編集委員の皆様には厚くお礼申し上げます。何といっても、会員一同、和の心を大切に一つの柱に向かい、互いに努力してゆくことを誓って行きたいと思えます。

津山市文化協会

平成30年度津山市文化協会総会の開催

日時 平成30年4月21日(土)

午前10時～

場所 津山市総合福祉会館3階
中会議室

総会にて平成29年度の事業報告・決算報告と平成30年度事業計画・予算が可決されました。総会終了後の情報交換会では、フラメンコアンサンブル津山によるフラメンコギターの演奏を行い、参加者全員で「赤い靴」や「月の砂漠」等をフラメンコギターに合わせて歌いました。

平成30年度文化講座の開催

今年度は文化講座を3回開催しました。

「文化講座消しゴムハンコを彫ってみよう！」

日時 平成30年8月21日(火)

午後2時～

場所 津山市中央公民館

講師 山田尚公氏(木彫刻家)

最近秘かなブームになっている消しゴムハンコ講座を行いました。参加者

は、彫刻刀を久しぶりに持つ方や初めて扱う方もいましたが、講師の指導の下、熱心に作品作りに取り組んでいました。



「紅茶の入れ方と楽しみ方講座」

日時 平成30年9月3日(月)

午後1時30分～



場所 津山市西苔田公民館

講師 宮本英治氏(紅茶研究家)

講師が用意した紅茶をお茶菓子と一緒にいただきながら、美味しい入れ方を実際に行ってみました。「紅茶は人生を潤すもの、五感を楽しみながら気分を高揚させるもの」という話を参加者は興味深く聞いていました。

「お香の香り、手づくり匂い袋」講座

日時 平成31年3月7日(木)

午後1時～

場所 津山市中央公民館

講師 浜村早苗氏(お香文化研究家)

参加者は香の原料である白檀や丁香、桂皮など十五種類を混ぜ合わせて調査し、金網袋に詰めて匂い袋を作りました。今までに知らなかったお香の世界に触れることのできた楽しい講座でした。



平成30年度文化研修会の開催

「中山神社周辺文化財めぐり」

日時 平成30年11月2日(金)

午前10時～

場所 中山神社・猿神社・本光寺の文
化財散策

芸術文化祭の開催

日時 平成31年2月2日(土)・3日(日)

10時～18時(3日は17時まで)

場所 アルネ・津山津山市地域交流
センター

津山市文化協会会員による芸術文化祭を開催しました。作品展や華道展など芸術作品展に加え、お茶席やステージ発表、詩の朗読会、詩画展、紅茶喫茶などを行いました。また、ワークショップとして文化協会会員による紙漉き体験や消しゴムハンコ教室、紅茶講座を開催し、大勢の参加者で賑わいました。



西東三鬼の

ふるさと俳句投句函

2018年度入選作品

■ 一般の部

- ・天守より見下ろす花の中に妻濡れてゐるなり少年と春の橋
- ・告知待つ待合室の寒椿
- ・石段の高きや雪の津山城
- ・春らしき朝となりけり軍手持つ
- ・ヘルパーの素顔に笑くば梅香る
- ・天守跡風吹いており名草の芽
- ・女院塚に侍る野良猫春まぢか
- ・声上げて帽子押さえる春一番
- ・穴を出し蛇と目の合ふ三鬼の地
- ・風光る園に水音絶え間なし
- ・初蝶の渡る八つ橋渡りけり
- ・鉄砲隊桜城趾の揺れてをり
- ・城跡の桜をもつて天となす
- ・胎の子もバギーの児も今桜びと
- ・城下に不來方を待つ雪灯り
- ・花屑や退屈さうな昼の月
- ・初燕津山城趾を登りきて

- ・城壁を上る蟻あり下る蟻
- ・ひっそりと秋の来てをりなまこ壁
- ・迷いこむ民芸館の夏つばめ
- ・石垣の角やテントウムシ登る
- ・白壁を切り裂く影や夏つばめ
- ・狭間の丸三角四角街は夏
- ・名園の流れに影を糸とんぼ
- ・山滴る幼児の指に好奇心
- ・じぐざぐに絡む思考やなめくじら
- ・涼しさや谷の瀬音の届く墓

(2018年4月締め切り)

(2018年8月締め切り)

投句函運営委員会
委員長 岸しのぶ
委員 溝口公江
生田恵美子
福島 毅
武本 節子

津山市	岡田 邦夫	特選
津山市	小西 瞬夏	特選
津山市	保田 基	特選
津山市	中島 正和	
津山市	中村 友香	
津山市	難波 澄子	
鏡野町	高原 喜久子	
津山市	林 勝義	
津山市	井上 典子	
兵庫県	山寄 緑	
岡山市	花房 典子	
津山市	妹尾 武志	
倉敷市	綱島 美真理	
津山市	井手 正子	
津山市	大塚 文枝	
広島県	久米本 謙一	
岩手県	木村 孝敏	
兵庫県	松井 ゆう子	
兵庫県		
東京都	児玉 るみ子	特選
宮崎県	安食 哲朗	特選
鏡野町	高原 喜久子	
津山市	中島 正和	
津山市	岡田 邦夫	
広島県	定藤 桂子	
兵庫県	莊野 エイ子	
津山市	保田 基	
津山市	妹尾 武志	
津山市	中村 ゆうか	

- ・棚経の声に上ずる少年僧
- ・山越しに打揚げ花火の音響く
- ・秋日濃し三鬼の街と知りてより
- ・川霧や城下を這いて古墳まで
- ・大空に穴をあけたる村落葉
- ・散り紅葉忠政像に十字見ゆ
- ・野仏や小菊を抱きうつらうつら
- ・この径は未知の領域茸狩
- ・冬めくや投網の中の雑魚の綺羅
- ・石崖の角より見ゆる冬の星
- ・かやぶきに舞いおりているあかとんぼ
- ・雲海の底より聞ゆ宮太鼓
- ・石垣に一人ただずむひがなばな
- ・城跡のイロハモミジや踊り来る

■ ジュニアの部

てつどうかんおおきなきてきびつくりだ	兵庫県	岡田 七海
スケートでしゅーしゅーすべるのたのしいな	兵庫県	岡田 咲葉
冬の朝津山の城からでる日の出	津山市	藤本 晴輝
じわじわと少しずつ咲く桜かな	兵庫県	辰巳 穂高
鶴山の白壁映える淡桜	大阪府	和田 輝安
津山城さくらをいっばいありがとう	香川県	前田 ともき
花びらが散るたびに人は変わってく	久米南町	富田 やつち
散るさくら青空の下ゆきのよう	福岡県	熊谷 涼那
車窓から夕日眺むる日永かな	福岡県	菊地 春菊
池のこいえさをくれると思っている	広島県	せお たける
まつのがもじゃもじゃしているさんぽみち	兵庫県	岡田 七海
忠政公ツツジに隠れ津山城	広島県	西山 孫悟空
蟬たちが私の帰郷をお出迎え	広島県	定藤 愛羽
ぶらりたびせみの鳴き声暑さ増す	兵庫県	杉田 つゆりんご
この春にれきしをかんじるじょうか町	鏡野町	谷本 陸真
どんぐりを集めてまわった衆楽園	倉敷市	井上 まるねこ
桜の木まださかぬかなまちどおしい	東京都	内藤 恒河
紅葉のすき間にもれる陽の光	岡山市	中村 心
おいもほりみんなであつておいしいな	津山市	寺坂 かのん

2018年度投句数 (799句)
開函以来総投句数 (21,632句)

加茂町文化協会

記念誌「響」第3刊を発刊しました

30年度の総会において、加茂町文化協会設立40年が過ぎ、記念誌のために積み立てておりました基金も十分だということ、今年度中に第3刊を発行することが承認されました。

編集委員を13名選出し、厨子秀喜編集長のもと、発行までの大まかな流れの計画を立てました。まず中心となる各グループの紹介と写真をお願いしました。代表者の方はなかなか苦勞されたらしく、文章を書くのは苦手だと言われながらも、ご協力いただきました。編集委員の中から作業部会を立ち上げ、その後はこの作業部会で事務的な作業をしましたが、全くズブの素人ばかりで、試行錯誤の連続でした。しか

し、素人なりに次々にアイデアが出され、時には議論が伯仲することもありました。

現在まで平成元年に第1刊、平成17年に第2刊の記念誌を発行しておりますが、参考のためにその記念誌を読み返すと、先人の方の文化活動に対する熱い思いがひしひしと感じられて、私たちも見習わなくてはと心に思いました。又、家族や周りの方の理解と協力がなければ、この活動は続けられなかっただろうと推測され、感謝の気持ちも忘れることがないようにと肝に銘じました。

会員の日頃の努力が文化協会を支え、そしてそのことが加茂の文化の向上の力になるのだと確信した記念誌の発刊であり、今後の活動に大きな道しるべを示したものと思います。

多くの方にこの記念誌を見ていただきたいと願っております。



阿波文化協会

阿波文化協会活動報告

あれ、もう一年過ぎたの？と協会の中で話が出ていますが、時間はみんな平等なのに、本当に月日が通り過ぎるのは振り返れば短く感じるの私たちだけでしょか。

何か変わったことができればと会議を開きますが、これという目新しい事がなく過ぎたようにも思いますが、各クラブは年間を通して、けいこや発表会・交流会等活動してきました。

写真クラブは、ふるさと祭り・みまさかの現在・みまさか写真展・県北写真展と数多くの展覧会に出展しています。

尾所の桜まつりには毎年桜の四季の写真を表示しています。

阿波の季節の写真も、あば温泉に飾り、訪れる方々にあばの魅力を発信しています。

撮りたい写真の構図を待ちながらひたすらその時、シャッターチャンスを待つ、数分のずれが作品の出来栄を左右する・・・センスも光ることながらいつも移動にはカメラが欠かせないそうです。

尾所の桜保存会では春の桜まつりにむけて、多くの方に来ていただき桜を楽しんでいただくとうと会場の整備や周辺の愛護活動を行っています。

地域の方達や、各グループに呼びかけて阿波ならではの食べ物テントを出店しています。

毎年薄桃色に咲く山桜に五百数十年私たちの地域を見守っている古木に想いをはせています。



▶ ナツメロを楽しもう会



▶ 阿波地域文化祭の展示



▶ ふるさと祭り
フォトコンテスト作品



▶ 文化祭ステージイベント



▶ バザーの様子



▶ 尾所の桜まつり写真展示

勝北文化協会

勝北文化協会 会長 上高 進

勝北文化協会には、文化部と芸能部があります。

それぞれの部から役員が選出され二年一期で運営に当たります。

役員は、毎年、春と秋の年二回加入グループに発表の場（文化祭）を提供しています。

とは言え、会場設営から片付けまで会員がスタッフになりゲストになり、まさしく会員手作りのイベントなのです。私はいつも「素人による素人のためのイベント」と言わせていただいております。

もちろん失敗もたくさんありますが、笑ってやり直せる優しいイベントだと思っています。

「自分たちで盛り上げるんだ」とい

う意識で参加してくださる会員ですが、毎年、確実に一歳ずつ大きくなっています。準備や片付けの際も、「体が痛い」とか「暑い」とか「寒い」とか「高齢者じゃけんもう辞めんといけんわ！」などと言われたりもします。確かに重たいパネル運びや、長時間のイベントは大変だと思います。

しかし、口では文句を言いながらもその表情はものすごく生き生きとされており、自分ができることを見つけ楽しそうに進められています。参加し続けることが素晴らしいのだと実感する場面です。

また、少しずつですが小さな子どもたちも参加を希望してくれるようになりました。

一歩一歩 亀の歩みかもしれませんが会員全員が生涯現役、キラキラ輝ける勝北文化協会であってほしいと願っています。



秋の文化祭
(芸能発表)



秋の文化祭
(作品展示)



春の文化祭▶
(いけばな展)

春の文化祭
(芸能発表)



久米文化協会

平成三十年度の総会は、お招きしたこともあり、来賓方に谷口津山市長をはじめ、今村文化課長、久米支所久松市民生活課長、地元選出の市議会議員等多くの、ご臨席をいただきました。

総会は、各部の評議員が出席して、昨年度の活動や、会計決算を承認した後、平成三十年度の事業計画などを協議し、決定しました。

〈活動内容〉

○研修旅行

楽しみにしている会員も多く、今年度は、京都の北部に有り、願い事が叶う？と言われる鈴虫寺などに行き、大変好評でした。

○久米ふるさと祭り参加

今年度は好天に恵まれ、オープニングに仙人太鼓の演奏等、主に午前と、午後の部に分かれ特設ステージの盛り上げに貢献しました。久米公民館の文化祭では、芸術部門が出展しました。

○ワークショップ的なこと

(シュロの葉っぱを使って、昆虫を作ろう)

多くの会員が受講し、講師をしていただいた藤堂信男さんの作品に驚嘆の声が上がりました。講師の手元を見ながら、四苦八苦して、なんとか完成させました。指先を使うので、ぼけ防止になると自分で苦笑しました。

○部活動のレベルアップ

希望のあったカラオケ部を中心に、カラオケ教室の先生をお招きして、三曲を選んで、小節の入れ方など、細かい部分を、丁寧に指導していただきました。

○芸術鑑賞

昨年好評だった、勝央町にある「NPO法人なのはなファミリー」公演を行いました。今年度も大好評で、次年度も是非と皆さんに頼まれてしまいました。

○梅の里まつり出演

今年は、梅も満開で、好天に恵まれ、もち投げのある為か、お昼頃には、舞台前広場が満員になるほどでした。



シュロの葉っぱ



なのはなファミリー



研修旅行



文化祭

平成30年度 くすのき賞

おめでとうございます。



(個人)

川嶋 絢

この度は栄えある「くすのき賞」を、娘に授与していただきましてことに心からの感謝とお礼を申し上げます。

ダウン症の娘は、幼い頃から音楽が好きで、特に年長時から習い始めたピアノは何よりも人生の支えとなりました。ピアニストとしてカナダ、台湾、ウィーンと国外の演奏会への参加、また国内でも東北大地震や熊本地震の復興支援コンサートにも参加させていただいております。

特に7年間にわたる台湾の障がい者音楽家達との交流が認められ、昨年、台湾の周大観文教基金会より『全球熱愛生命奖章』を授賞したことは、障がいはあるけれどもピアノの演奏を通

じて社会活動を続けることができ、事を、皆様に知っていただく大きな力となりました。現在、津山市で台湾の障がい者音楽家達との国際交流コンサートの開催を実現する為、娘とともに新たな活動を始めました。娘を「くすのき賞」にご推挙いただきました皆様のお心を大切に、娘が真摯にピアノに取り組むことで、社会へお返しができますようにと願い、私たちの町津山市において、益々、文化の発展が続いていきますことを祈念いたしております。

(母・川嶋智子)

平成30年度 津山市文化連盟功労賞

おめでとうございます。



(個人)

平田 安男

戦後という、昭和の時代を駆け抜け平成の時代も終りを告げ、まさに

新しい時代を感じるに当り、今回、津山市文化連盟功労賞という身に余る賞を戴き心より感謝を申し上げます。

昭和五十九年、勝北町に歴史民俗資料館が完成し、その開館を機に、「勝北風の里年表」並びに「文化財と石造美術」の冊子発刊に携わって、はじめて、地域の歴史文化に觸れることができました。

温故而知新(古きをたずね新しきを知る)という古事を至信として、これからの余生を大切に参りたいたいと思います。

津山市文化連盟功労賞選考規定

平成27年10月規定制定

【趣旨】津山市文化連盟に所属する団体の中から、長年(10年以上)にわたり地域における伝統文化の保存・継承等に取り組み、文化振興に功績がある団体又は個人を選考し顕彰する。

【対象】次のような視点で候補を選び、津山市文化連盟に所属する団体又は個人に贈る。

①地道に活動が続けている努力に光を当て、ねぎらい、鼓舞する。

②地域の伝統文化の振興と、次世代への継承を称える。

【選考】候補者の推薦について、各文化協会(津山市文化協会、加茂文化協会、阿波文化協会、勝北文化協会及び久米文化協会)より選考規定の趣旨に沿った団体又は個人を推薦する。

推薦のあった団体又は個人について、津山市文化連盟運営委員(各文化協会会長及び副会長で構成)が審議し、その内容を基に津山市文化連盟功労賞選考委員(津山市文化協会会長、加茂文化協会会長、阿波文化協会会長、勝北文化協会会長、久米文化協会会長及び文化課課長)により決定する。

本賞は原則として1年度1団体又は1個人を選考するものとする。

【賞】正賞は賞状。

後記

津山市文化連盟会報第13号の発刊に当たり、お忙しい中寄稿いただきまして皆様にお礼申し上げます。

平成30年度は将棋の女流棋士、里見香奈四冠を招いて「将棋を通して学んだこと」と題しての講演会を行いました。講演依頼のお手紙を送ってはみたものの、講演を受けてくださるかどうかは正直不安で、ご本人から承諾の連絡を頂いたときはすごく興奮しました。講演するのは、ご本人曰く、初めてのことでしたが、落ち着いて話されました。将棋を通して礼儀作法や集中力、忍耐力を培ったこと、報われないかもしれないが努力無くして絶対に入らないものではない等語られ、将棋を知らない参加者からも好評の講演会でした。津山市文化連盟では今後も津山文化の発展と振興に取り組んでいきたいと思っておりますので、会員皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。(事務局)

津山文化

発行 津山市文化連盟

事務局 津山市教育委員会生涯学習部文化課内

印刷 津山朝日新聞社

平成31年4月発行